

第55回中央労働講座

6月6日から8日の2泊3日、豊橋シーパレスで、第55回中央労働講座が開催されました。関西地本から4名が参加し、大阪支部からは私が参加しました。各地方から27名と中央本部から5名の合計32名の参加者がいました。

～第1日目～

15時から早速、第1講座がおこなわれました。講師は中央本部副委員長の鈴木龍一さんがおこないました。題名は「更なる組織強化と運動の前進～原点回帰」「組織強化とは、役員とは、組織運営はどうあるべきか」というタイトルのもと始まりました。



11ページの資料には、失われた30年間私たち労働者にとっても賃金が上がらないなど弱体化していく日本、そして労働組合としてもこの30年は「たたかう気概すら奪われた30年」とありました。そして、現在の労働組合の現状について講義があり、若い世代の組合離れが深刻なことについては各地方共通の課題であると感じました。そして、労働組合の重要性そして、役割や任務について知識を深め、組合リーダーに必要な基礎知識、日常の活動や振る舞いなど細部に渡るまで丁寧な講義を受けました。

～第2日目～

2日目は2部構成でおこなわれ、第1部は中央執行委員長の鈴木誠一さんから「全国港湾の成り立ち」について講義があり、戦後の港湾労働の歴史や、1947年の日本港湾中央会解散によって六大港が戦前のような業者乱立状態に陥り、港湾労働者の就労権を掌握する手配師たちによる中間搾取が横行し、1953年全国港湾設立の流れを自身の青年期の体験談を織り交ぜ詳しく講義して頂きました。



そして、革新荷役から体制的合理化（雇用破壊）に話が移り、1968年全港湾と日港労連は「魅力ある港湾労働についての基本的考え」が提案され、いまの協約の基礎になる要求が提案されました。1972年全国港湾を結成、2008年全国港湾連合会へ組織強化となる歴史認識を深めていきました。



そして第2部では、中央副委員長である島山昌悦さんから「労働基準法」について講義がおこなわれました。Q&A方式のなど大変楽しく学

べる時間となりました。最後の小括のなかに「労働基準法があるにもかかわらず、未払い賃金の横行や長時間労働による過労死など労働者が被害者となる事件が後を絶ちません」とありました。私もいくつかの分会を担当していますが、このような問題があります。今回の講義をきっかけに労働基準法の知識を深め、労働者が被害者にならない組合運営をおこなわなければいけないと感じました。そして小括のなかには「労働基準法の運用は現実的には労働者に圧倒的不利で未成熟な法律なのです」ともありました。全港湾の運動力をもってこの不利的な立場を対等なものしていければとも感じました。

そして講義が全て終わり、レクリエーションでドッチボールをおこないました。最初は「いい大人が」と思いましたが、時間が経つにつれて夢中になり、鈴木委員長が頑張っている姿を見ていると感化され、最後には汗だくなるまで夢中になっていました。成績は頑張りも虚しい結果となりましたが、チームメートと団結できたと感じました。

～最後に～

現地に行くまでは気が重く、また班の長も任せられ、さらに気が重くなりましたが、ドッチボールで団結できたことでみんなとの距離感が縮まり、そしてグループ討論でも活発な意見や自身の体験談などたくさんの意見交換ができました。そして最後のグループ討論（総括）では、これからも皆と問題を共有や相談ができたらという意見が出て自分も皆と共に頑張ろうと決意を新たにできました。

(執行部 佐久原 智彦)



発行 大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 國分仁昭

危険と隣り合わせの万博反対

書記長 吉駒 真一

2024年6月6日、大港労協三宅事務局長を招き港湾の職域に対して、万博・IRが私たちにどのような影響をもたらすのか、また翌々翌日には、ジャーナリストの西谷文和さんを講師として「万博止めて維新を止めよう」を題材に連続して学習しました。両講義を受けて、なぜ夢洲？誰のための？何のために？などおかしなところだらけの万博を報告します。

まず、夢洲の万博1・2区、IRカジノ3区の地盤に関してですが、情報公開請求にて出てきたデータによると地下57メートルまで「N値5」です。N値とは何か？重さ63.5キロの重りを高さ75センチから自由落下させ、30センチ沈むまでに落下させた回数です。ちなみに2階建ての一般的家屋を建てる場合は最低でもN値20が必要で、高いビルやマンションならN値50以上ないと建てられません。つまりN値5というのは保育園の砂場レベルです。なぜなら夢洲は、建物を建てようとして埋め立てたわけではなくゴミ処分場として、川底の土砂ヘドロなど含水率50%、つまり半分は水で半分はPCB（化学物質：きわめて毒性がきつい）、六価クロム、水銀など有害物質を含んだ汚泥を埋めては固めてを繰り返した埋め立て地だからです。開始から約30年ですでに5メートルも沈んでいます。ここに高層物を建てるなら海底の岩盤まで届く80メートルの

杭（約1億円）を何百本も打つ必要があります。また、吉村知事は昨年8月の関西コレクションで「会場の上には空飛ぶ車が飛来する」「自転車のようにぐるぐる回っているの見える」と予言。おそらく巨大なドローンですが、万博会場を飛行させ墜落でもしたら搭乗者はもちろん来場者も犠牲となります。そしてその着陸場とシャトルバス駐車場は、ゴミの焼却灰で埋め立てた1区です。ダイオキシンや、アスベストなどが充満し、ゴミからは今でもガスが出てくるので、79本の煙突でガスを排出させています。溜まると爆発します。すでに爆発事故が起きています。さらに、吉村知事の説明どおりの来場者数となれば、もともと無人島で橋とトンネルだけの夢洲に想定外の人が訪れることとなります。



もともと大阪府民の生活を支える物流拠点としての関連車両だけでも渋滞問題を抱えていたが、そこにどれほどのシャトルバスや関連車両が行き来するのか？橋とトンネルは、まさに砂時計の中心の細い部分のようになり、巨大な渋滞が起きるでしょう。そこで、病人やケガ人が出たらどうするの

か？台風や地震が起きたらどうするのか？他にも上下水道問題など書き出すときりがなく、わずか半年の万博開催に地下鉄まで...。その後のIRカジノが見え見えです。お金の問題もかなり深刻ですが、安全を度外視し、命にかかわる危険と隣り合わせのまま大阪万博開催に向け、今も強行していることが大問題です。



以前、維新の松井、吉村、馬場がメディアなどで言っていました。「何兆円もの経済効果で、大阪は儲かりませ」と、私には「客から博打でたくさんお金を巻き上げませ」に、聞こえます。府市長や過半数政党が発想し、実行することなのかと呆れますが、ほっとけません。

万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」とは、真逆の恐ろしい未来が想像つくからです。

今の府政に望み期待など持ちようがなく、住み良い街、安心・安全な生活を手に入れるためには、世論を動かし、万博・IRカジノを止め、維新の暴走を必ず止めなくてはなりません。真つ当な政治を取り戻すまであきらめず運動展開していきましょう。